

東日本大震災直後は、東京も電車の遅延や食糧不足で混乱していたが、震災から2ヶ月が過ぎ、会社でボランティアを募集したので応募し、岩手県大船渡市へ向かった。現地では外国人ボランティアが震災直後から活動を続けていて、私は用水路のヘドロかき出し作業に加わった。

地元の人がお菓子を差し入れてくれ、お昼には冷たい飲み物を用意してくれた。みんな、自分の家も被災されているのに、「ありがとう」と私たちの活動に頭を下げる。先の見えないヘドロのかき出し作業よりも、現地の人々の家の修復作業が先ではないかと外国人のリーダーに尋ねたメンバーがいたが、ハイチ大地震の復興経験のあるリーダーは、「生活に必要な水のラインを整えなければ、家をきれいにしても生活は戻らない」と説明してくれた。

バケツに何杯のヘドロを汲み出したか覚えていないが、2回目には用水路にきれいな水が流れ出し、どこからかアヒルが飛んできて水浴びを始めた。地元の人も「以前の光景が戻ってきた」と喜んでくれた。私たちのボランティア活動はこの2日間で終了だったが、外国人ボランティアの人たちから「来てくれてありがとう」と言われた。

そして、お菓子を差し入れてくれた地元の方は、「泥だらけの作業をありがとう。大船渡は必ず復興するから、その時はまた遊びに来てちょうだい。あなたたちを優先に泊めてあげる。」と力強く約束してくれた。

返す言葉を失った。ここは日本なのに、私たちは被災地の人を助けに行っただけなのに、海外から自分のお小遣いで飛行機に乗り、被災地に駆けつけ、震災直後から活動している外国人ボランティアに仕事を教わり、地元の人に元気づけられて東京へ戻ってきてしまった。

今回のボランティア活動で生きていることに改めて感謝し、被災地へ行くだけでも現地の人々の力になれることを実感した。All Hands ボランティアの皆さん、そして、大船渡市の皆さん、温かい言葉をありがとう！